

第3回町民会議の発言要旨（まとめ）

※発言No.は、別紙「第3回町民会議の発言要旨①（フリートーク部分）」の各委員の発言要旨に対応しています

検討テーマ	発言項目	発言No.	
行 財 政 改 革	現状認識	課題（人口減少・火山等）解決には前提として財源問題の解決が必要	5
		歳入の基本は町税であるが、今後大幅な増は見込めない	6
		固定資産税超過課税は現行サービス維持の必要財源と認識	15
	今後の 方向性	徴収対策に一生懸命努力していれば増税も納得できる部分もある	45
		歳入確保ばかり考えず住民が納得するよう歳出削減をより考えるべき	23
		歳出削減の実施が必要（超過課税が常態化しないよう）	34
		今後は地道に行う政策と20年30年先を見据えた政策が必要	19
		箱根町の関係者の全てが幸せになるべき（幸せになれる要素がある）	53
		幸せのためには成長に向けた高い目標が必要	54
	税のあり方	歳入確保策の検討（入湯税、都市計画税、固定資産税、使用料等）	7
		観光税の新規導入（入湯税のように取りやすい税ではなく）	20
		別視点からの課税の検討（美術館入館者やフリーパスなど）	21
		負担にあたっては全体の公正化の観点から考える必要	22
		観光経済の活性化を税収増に繋げることが最大の課題	27
		新税の検討（別荘税もメリット・デメリットを踏まえた上で検討）	29
		新税の検討（出来ない理由ではなく出来る理由を考える）	47
	歳入確保策	町有地1筆調査による売却・貸付の実施	13
		徴収体制の強化（実効性のある徴収体制の整備）	12
		徴収対策の具体的内容の説明が必要（善良な納税者が損をしないよう）	43
		健康診断の通知のあわせた滞納の取組みの周知の実施	44
	歳出削減策	歳出の見直し（高額補助金・特別会計繰出金の見直し）	9
		人件費の削減（再雇用制度の見直し、組織統合による管理職削減）	8
		人件費の見直し（議員定数の半減など徹底的な見直し）	24
		公共施設の見直し（特に不採算施設の整理）	30
公共施設の取捨選別（今後の維持管理費が課題のため）		33	
その他	町民会議の位置付け（超過課税の言い訳に使われては困る）	46	
	町民会議は先を見据え新しいことの実施に向けて話し合うべき	51	
	これまでの財政状況や行革取組状況の周知が必要	10	
	町長の考えを踏まえた町職員の行動が必要	42	

※発言No.は、別紙「第3回町民会議の発言要旨①（フリートーク部分）」の各委員の発言要旨に対応しています

検討テーマ		発言項目	発言No.
観光のまちづくり	現状認識	民間事業者は閉塞感がある（超過課税、ごみ処理、消費増税、大涌谷等）	52
	今後の方向性	人口減少する中でも観光が衰退しないまちづくりが必要	17
		観光振興への予算の積極的な確保（入湯税から取っても良いので）	25
		観光の課題解決のための官民一体のオール箱根組織の設立	28
	行政が担う観光振興策	仙石原すすき草原の有料化方法の検討	2
		ホテル・保養所の空き物件の紹介による誘致	40
		観光客の納得を得られるサービスと質に投資し楽しむ対価を得る仕組みの検討	49
		地価上昇に繋がるような取組みの実施（例…軽井沢）	31
		成長に向けて実情を踏まえた目標設定を行うべき（旅館増に対応）	55
		投資促進の仕組み創設（投資→観光客増→収益・税収増→町民サービス向上）	56
成長部分に焦点をあてる事が重要（投資減免・環境税など異なる視点で）	57		
住みやすいまちづくり	現状認識	人口減少は町の子育て施策に関わらず全国的な流れでやむを得ない	16
		移住の取組みは人口抑制できても根本的な解決にはならない	48
		観光地は住み難いことを前提に対策を行うべき	26
		町の少子化対策（補助制度）は頑張っている実感はある	36
	旧町村意識	旧5カ町村意識の問題（バランス良い施設整備等の解消）	1
		旧5カ町村意識の解消は集落分散のため困難	14
	インフラ整備	国道1号渋滞対策（増加する自転車への対応等）	4
		国県と一体となった道路整備による渋滞解消	32
	コミュニティ	女性会の今後の運営（会員減少等）	3
		今後は教育や福祉を支える世代の確保が必要	18
	人口減少対策	職員採用面での先導的な取組みの実施（人口減対策）	11
		町職員が町内で子育て教育をするような取組みが必要	38
		人口の流入増を目指す取組みが必要（メリット・デメリットの説明）	41
高校生の通学環境の整備（少子化がますます進んでしまう）		35	
大学生に対する支援がない（費用がかかるのは高校・大学のため）		37	
英語は抜群に身に付くなど特化した教育の取組みが必要		39	
大学時に転出しても子育て期に戻る仕組みを作る（子育て施策の充実）	50		

第3回町民会議の発言要旨①（フリートーク部分）

発言者	発言要旨
委員	<p>1 町制60周年が経過したにも関わらず未だに旧五ヶ町村の意識を引きずっており、公共施設のバランスの良い配置など、今、それが負担となっている部分があるので昔の町村という意識は卒業した方が良いのではないかと。</p> <p>2 仙石原すすき草原に年間何十万人の観光客が訪れるが、町の収入はゼロである。すすき草原関係の支出が毎年数百万円あるのであれば、何らかの方法で料金徴収する方策を考えるべきである。</p>
委員	<p>3 女性会について若い会員の加入が進まず、会員減少を食い止めようとしている中で会費を上げることもできず、会の運営に苦慮しているので、良い方法がないか意見を伺いたい。</p> <p>4 国道1号の交通渋滞が多い中で、最近、自転車が増えており車道が狭く、歩道も少ないので車の運転時に危険である。</p>
委員	<p>5 観光立町を基本としたまちづくりを進めている中で、人口減少・少子高齢化、火山との共存等の課題への対応には、その前提として財政問題を解決する必要があると思う。</p> <p>6 歳入の基本は町税であり、固定資産税が引き上げられている中で課税客体の把握や徴収率の向上がアクションプランに位置づけられているが、大きな歳入増は見込めない。</p> <p>7 このため、町民負担が増えるかもしれない難しい部分があるが、入湯税の引上げ、都市計画税の導入、固定資産税の引上げの延長とともに、使用料・手数料の見直しも必要ではないかと思う。</p> <p>8 歳出面では、事務経費の削減は、既に限界に来ていると思われ、人件費も職員削減や昇給停止等を行っている。人件費については、再雇用制度の年数短縮や財政状況回復までの一時凍結、組織の統合等による管理職の削減など、若干でも人件費削減ができるのではないかと。</p> <p>9 各種団体への高額補助金とともに特別会計繰出金の見直しができないか。繰出金を見直すと使用料等の負担が増えるかもしれないが、ある程度は見直し住民負担の増や住民サービス低下もやむを得ないというのが、過去2回の会議を通じて感じた財政再建に対する考え方である。</p>
委員	<p>10 固定資産税の超過課税の期間が残り2年となったが、これまでの町の財政状況や取組状況を周知した方が良くと思う。</p> <p>11 町は若い世代の転出抑制に取り組んでいるが、職員の採用面でも町内企業の手本となるような先導的な取組を行うべきである。その1例として町外職員のふるさと納税の状況を職員に広く周知してはどうか</p> <p>12 滞納者に対しては関係課の情報交換だけでなく、何らかの実行性のある体制ができないか。特に国民健康保険の都道府県化を見据えて徴収強化にしっかりと取り組んで欲しい。</p> <p>13 町有地の1筆調査を行い、売却や貸付をもっと行い少額でも良いので財源確保に努めて欲しい。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>14 旧5ヶ町村の意識が残っているのは、地形上、集落が分散していることもありやむを得ないのではないかと。</p> <p>15 固定資産税の超過課税は、新たに何かをするのではなく、今のサービスを維持するために必要な財源であると捉えている。</p> <p>16 人口減少が進んでいるのは住みにくい町であるため、特に働いている世代が転出してしまう。小田原市と比較して小児医療費やバス代の補助等が充実しているが、それでも転出してしまうのは、全国的な少子高齢化のなかでやむを得ないのではないかと。</p> <p>17 箱根町は、観光立町であり人口が8,000人、5,000人となっても観光まで衰退させてはいけない。2,000万人を超える観光客が来て町が潤っていくのであれば、その道を選択し、納得しなければならない。</p> <p>18 今後は、教育や福祉を支える世代がいらないといった課題が大きくなるのではないかと。</p> <p>19 これらを踏まえると、今後の行財政運営は、地道に行う政策と20年・30年先の人口減少等を見据えて覚悟をもって取り組んでいく政策の2つを同時に取組む必要があるのではないかと。</p>
委員	<p>20 入湯税のように取りやすい税金を上げれば良いという考え方ではなく、観光地なので観光税のようなものを新たに考えて欲しい。</p> <p>21 例えば美術館の入館者への課税や交通機関もフリーパスを買った時点で課税するなど、別の視点から考えて欲しい。</p> <p>22 現状は、固定資産税超過課税の実施、ごみ処理手数料の改定など宿泊事業者の負担が大きい一方、美術館等はあまり負担をしていない印象があるので、全体の税金の公正化の観点から考えて欲しい。</p>
委員	<p>23 税金を取る方ばかり考えずに、歳出削減をもっと考えて欲しい。それでもなお財源不足で困っていると町民に説明しないと理解が得られないと思うので、様々なことを考えながら進めて行く必要があると思う。</p> <p>24 個人的な意見であるが、町職員の賞与の報道を見ると宿泊業では賞与を出しているところは少なく、また出せないのが現状であり、例えば議員定数の半減など徹底的に見直しをして欲しい。</p> <p>25 観光立町なので、観光振興への財源を充実して欲しい。全国の観光地と競争しているなか他地域では既に予算をかけて地域全体で取り組んでいるので、入湯税など取りやすいところから徴収しても良いが、観光振興への予算を積極的に確保して欲しい。</p> <p>26 鎌倉、京都など観光地は、住みにくいのは事実なので、それを前提として対策を行い変わって行くことができれば良いと思う。</p>
委員	<p>27 町税の80%が固定資産税と入湯税で占められており、観光産業が歳入を支えていると感じた。今後も観光経済を活性化させて、事業者の増収を税収の増に繋げることが最大の課題である。</p> <p>28 観光協会の取組みとして昨年の大浦谷の争奪以降、関係者に対し課題を調査し分析している。その課題解決のために組織又は仕組み作りが必要と考え、官民一体となるオール箱根の組織が設立できればと考えている。</p> <p>29 新たな税収について、熱海市の別荘税をメリット・デメリットを踏まえた上で検討して欲しい。</p> <p>30 歳出については、住民サービスの底上げに繋がるかもしれないが、備後施設を含めて公共施設の見直しが必要であると思う。特に不採算施設の整理は必要であり、整理によりどの程度の財源が確保できるか検討して欲しい。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>31 軽井沢のように近年、地価自体が上がっている市町村もあり、箱根町も町の価値が上がり地価が上昇すれば固定資産税の税率も戻ることもあるので、地価が上がるような取り組みを行って欲しい。</p> <p>32 道路について静岡県側は整備が進んでいるが、箱根町は渋滞が慢性的に起きており、国道1号、南足柄箱根道路のほか、足柄幹線林道等についても国県と一体となって事業を推進して欲しい。</p> <p>33 公共施設について町の公共施設白書を見ると維持管理費の増加が課題という施設が散見された。その中で今後は公共施設の取捨選別をしていく必要があると思う。</p> <p>34 固定資産税超過課税が常態化しないよう、歳入だけでなく歳出もしっかり議論して削るものは削るという方針を出していく必要があると思う。</p>
委員	<p>35 高校学区制が廃止され、保護者が小田原まで送り迎えできる家庭はまだ良いが、それが出来ない家庭は、バスの時間等の交通環境を考えると高校進学の実行が非常に狭いのが現状であり、このままでは少子高齢化がますます進んでしまう。</p> <p>36 子育てするなら箱根町を掲げ少子化対策にずっと取り組んで、中学生まで医療費無料、通学費も助成があり、高校通学費も保護者負担の増があったが大半を町が補助し頑張っていたという実感はある。</p> <p>37 実際にお金がかかるのが高校・大学であり、現状、大学生に対する支援がないので、大学まで箱根から通え、一生教育を受けられるような教育が充実した町であって欲しい。</p> <p>38 町長の所信表明においても職住近接の取り組みについて触れていましたが、災害対応もあるので町職員が、町内で子育てを行い教育を受けるよう、先頭を切って取り組んで欲しい。</p> <p>39 例えば、英語は抜群に身に付くなど、何か特化したものがあれば若い世代が来て町が活性化し、お年寄りも支えられるので、最重要課題として教育の事を何か行って欲しい。</p>
委員	<p>40 収入の半分を占めるのが町外法人のホテル・保養所等からの固定資産税なので、町が主導となりホテルや保養所の空き物件を集約し、購入希望者に紹介することで誘致を行ってはどうか。</p> <p>41 子育て世代を増やしたいが、流出阻止は難しいので流入を増やしてはどうか。箱根でしかできないことなど住むメリットをアピールする一方でデメリットを正直に伝え子育て世代を増やしていくことが出来れば良い。</p>
委員	<p>42 町長選挙の際の演説会で町の表情を踏まえ今後は相当厳しい姿勢で臨まないといけないという話を聞いた。幹部職員や40代以下の職員が、この町長の考えを身に染みて日々働いているかどうか、この会議で見て行きたい。</p> <p>43 例えば徴収率について、善良な納税者が損をしないよう限りなく100%に近い徴収率にして欲しい。また、90%から91.2%に上がったという説明ではなく、税務課の職員が努力した成果を具体的に示して欲しい。</p> <p>44 国民健康保険が赤字であるが、健康診断の通知にあわせて、保険料の滞納者に対してどうしているかなど滞納の取り組みなども周知して欲しい。</p> <p>45 滞納の連絡会議により、どのような成果が上がったか教えて欲しい。そうすれば、固定資産税超過課税を実施しているが役場も徴収対策に一生懸命努力しているのでやむを得ないと納得する部分があると思う。</p> <p>46 固定資産税超過課税の時限立法が過ぎた際に、町民会議を設置しパブリシティーは行っているという言い訳にこの会議が使われては困る。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>47 新税を真剣に検討して欲しい。熱海市のみ継続して実施しているのであれば、実施している理由を考えた方が良いのではないかと。</p> <p>48 人口減少は、日本全体で進んでいるので、移住の仕組みを打ち人口減少の抑制はできても、人を取り合うだけで根本的な解決にはならないと思う。</p> <p>49 箱根町が観光立町であるならば観光客が納得できるサービスを提供すること、観光の質を維持することが重要であり、町が景観維持、環境整備等をして、観光客から楽しむ対価をいただき、さらに町を整備して、より多くの観光客に来ていただく環境を作っていくべきであると思う。</p> <p>50 大学から遠く進学による一時的な転出は避けられないため、一度、町から出ても、中・高校生までの子育て施策を充実することで親世代になり町に戻ってくるサイクルを作る必要があると思う。</p> <p>51 町民会議は、国、県等の様々な制約があるなか、固定資産税超過課税の言い訳にのためのものではなく、先を見据えて何を行うべきか考えるための会議として、何か新しいことの実施に向けて話し合いができれば良いと思う。</p>
委員	<p>52 固定資産税超過課税やごみ処理手数料の改定、今後は消費税の増税や大涌谷の事象が再度起こる可能性がある中、民間事業者としては先が見通せず閉塞感があるのが率直な感想である。</p> <p>53 個人的には町に住んでいる方、関係している方の全てがもっと幸せになるべきであり、幸せになれる要素が箱根町にはあると思う。</p> <p>54 町に何でも作ってもらい、何でも行ってもらうのは限界というのが皆さんの共通認識だと思います。その中で幸せになるには、成長していくために高い目標を持って行くべきであると思う。</p> <p>55 国を挙げてインバウンドに取り組んでいる中で観光はチャンスである。町では観光客2,000万人を目標に掲げているが、高級旅館のオープンが予定されているなかで、このままでは観光客の取り合いになるため、成長に向けて宿泊客数の増を見込んだ目標設定し取り組んで行くことが必要である。</p> <p>56 箱根町に投資してもらえれば、経済が回り、固定資産税は増え、観光客が増え、雇用も生まれ、住民も増え、域内消費が増えます。そして最終的に地価が上がり、事業者収入が増え、町の収入が増えることで町民サービスの向上が図れると思う。</p> <p>57 固定資産税の投資減免、環境税など少し違う税金の仕組みにより上手く財源を確保し、さらに観光客に来てもらい、もっとお金を使っても良いと思ってもらうには、何よりも成長の部分に焦点をあてて考えていくことが必要だと思う。</p>

第3回町民会議の発言要旨②（意見交換部分）

1 各委員の発言に対する意見交換の要旨

項目	発言者	発言内容
民間賞与について	アドバイザー	旅館は、賞与を中々出せないという発言がありましたが、観光客数が持ち直している中で旅館の収益に中々結びついていないということでしょうか。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> 観光業全体で東日本大震災のつけがある中で昨年の大涌谷の事象があり、また、サービス業で賞与を出すのは基本的に少なく他の委員から宿泊施設を増やしてはという発言がありましたが、箱根町は他地区に比べ人件費が高く、特に山の上の地域では人が集まりにくい問題もあります。 宿泊業を取り巻く環境はシビアで地震や火災が一つ起きると対策を迫られ、装置産業でリニューアルしないとお客様から飽きられてしまいます。また、地域外とも競争しており、賞与を出すことが難しいのが現状です。
ファシリテーターまとめ	ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> 皆さんの発言は多岐にわたりますが、大きく分けて「行財政改革」、「観光のまちづくり」、「住みやすいまちづくり」の大きな三つのまとめりであったと思います。 一点目は、町民会議の発端でもある財政問題と行財政改革について様々な発言がありました。 例えば、役場の対応が手緩い、滞納者に対する対応の結果や成果の説明不足、公共施設の統廃合のほか、固定資産税については異なる立場の発言があり、違う新しい税金、異なる税で歳入を得るべきという意見もありました。 二点目は、観光地としての箱根町のあり方の問題です。 観光地として繁栄しているが、本腰を入れより戦略的に取組めば、成長や収益に繋がる可能性があり、歳入増加と人を呼べるのではないかなどの意見がありました。 三点目は、住む場所としての箱根や住みやすいまちづくりというテーマに対して色々な発言がありました。 女性会の加入者減の状況や高校・大学生を抱える親の深刻な現状、若い世代が定住するための意見、定住にはインフラへの投資がまだ必要であるという意見もありました。
仙石原すすき草原について	委員	仙石原すすき草原について、仙石原で一番観光客が来て収入を得られる場所にも関わらず収入はないので、良い方策を考えられればと思います。
	委員	環境省によるすすき草原のシカ対策のフェンス設置について、観光面を考えると天然記念物を含め観光資源であるため見せることも考えて欲しいが、町はどのように考えているのか。
	企画観光部長	環境省によるフェンス設置の概要資料は見ており、仙石原地域で説明をしていることが聞いているが、町には正式な話は来ておらず、町の役割自体も決定していない状況である。
	委員	すすき山焼き実行委員会では、以前から調整を行っており、会合には町職員も来ていた。その中で環境省担当者から歩道整備とあわせて全部フェンスで囲うことが決定したような説明があったが、町には話がないのか。

項目	発言者	発言内容
仙石原 すすき草原 について	企画観光部長	町で来年度予算を要求しておらず実施しませんが、事実確認を早急に行う必要があると思います。
	ファシリテーター	この件は各論であり、深入りはしませんが、基本的には国の管轄ということですね。確認についてはお願いします。この件も観光に関する箱根のあり方に係る一つの課題だと思います。
税負担の あり方 について	アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> 私の筋論は、年間2,000万人の観光客ためごみ処理や救急車を多く配備する必要がある、恩恵を受けている日帰り観光客を含めた観光客が負担する箱根独自の税の仕組みを考えるのが、本来の受益と負担であると感じています。 まず考えられるのが、町に入る際に課税する方法です。公共交通機関利用者は鉄道会社や各バス会社を特別徴収義務者として、町に納税してもらい、岐阜県や太宰府市のように自家用車は屋外の有料駐車場で課税します。 別荘利用者には別荘税と同様の仕組みとし、宿泊者は、入湯税と重複するかもしれませんが、東京都のホテル税は、1万円以上の宿泊に対して課税しています。 筋論として観光客の方々がただ乗りしている部分を町民ではなく、観光客の入町時に負担してもらうことで財源補てんが出来ると思います。税額は余分に掛かる部分を観光客数の2,000万人で割ることで算出できると思います。
	委員	入湯税は、ごみ処理や消防の経費にも充てていますが、同規模の宿泊施設でも温泉があるかないかで負担が変わり、不公平感があります。宿泊税であれば、民宿なども対象となり、入湯税を上げずに税収が増えますが、皆さんはどう思いますか。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊税は、東京都と大阪府が導入していますが、宿泊料金により税額が異なり、入湯税は取っていません。 宿泊業者としては、税金は皆から取ってもらいたい。国立公園入場税としてETCで課金すれば、観光客から徴収できると思います。税収増の一方で観光客が減る可能性があります。実際に富士山では入山者協力金を取っています。 別の会議で入湯税を引上げ、観光基金を作ってはという話がありましたが、入湯税が目的税であることを一般の方は知らないの、よく説明して欲しいと思います。 入湯税は、過去は観光振興に多く使っていましたが、徐々に縮小している現状があります。やむを得ない部分もありますが、もう少し観光振興のために使い全体としてお客さんが増え、一方で箱根に住んでいる人が住んで良かった。箱根が大好きと言えるようにできれば良いと思います。
	ファシリテーター	新税については理屈で考えると、来る方から別の形で取ることも当然考える余地があると思います。他の委員から別の税という意見も出されており、今後勉強をしながら新税について議論していくことができれば良いと思います。
国立公園 について	委員	<ul style="list-style-type: none"> 仮に国立公園でなければ町民1万2,000人に対する事務事業を行えば良く、国立公園の目的である国民の保養の実現に係る支出が必要ないので赤字にはならないと思います。 国民の保養に関する法律に基づいて事業を行っているのであれば、新たな税を求めるのも良いが、国に助成やてこ入れをしていただきたいと思います。

項目	発言者	発言内容
国立公園について	委員	国が決めている制度で、我々にとっての恩恵とデメリットがあると思いますが、実際、国立公園として何か国から支援を受けていることや助成はありますか。
	財務課長	直接的に国立公園として交付されるお金はありません。環境省は町内に事務所を置き、国として自然を保護するスタンスであり、特別に補助率を上げるなどの支援は、町にはありません。
	委員	町を訪れる理由は様々ですが、秋の紅葉や春の新緑は国立公園として自然景観を守っているから来ていただいていると思います。このため、国立公園を維持していくために、何を行うべきか考えた方がよいと思います。
	委員	国に助成を求めても、もっと大変な市町村があると言われる可能性があり、また、仙石原すすき草原のフェンスも設置せざるを得ないと思いますが、町側が受け身ではいけないと思います。観光立町として国立公園内でも必要な規制緩和を要望することなども論点になると思います。
	委員	国が国立公園のブランド化の取組みを進めているので、町も手を上げ、国の助成を含めて、それに乗る形で取り組んで欲しいと思います。
	ファシリテーター	国立公園の問題は、返上は現実的にありえず、国の助成も相当ハードルが高いですが、前向きなことを行うというスタンスを出せば、もしかしたら考えられますので、どのような突破口があるか、今後の議論のテーマになると思います。
29年度予算編成について	委員	28年度から9億円財源不足の状況で固定資産税の値上げとアクションプランで不足分を埋めましたが、29年度の予算編成の状況は、どうですか。
	財務課長	財源不足の状況は、現在、各課要求を集計中で、もう少し時間が必要だと思っています。町税収入は、集計は終わっており5,000万円程度、28年度当初予算と比べて増えると見込んでいます。
	委員	28年度は、アクションプランで1億5,000万円、固定資産税超過課税で5億円程度増えましたが、9億円との差額をどのように対応したのか教えていただきたい。
	財務課長	28年度予算は、固定資産税超過課税の他、町で色々工夫し頑張っって削減した部分、アクションプランの実現、ふるさと納税により編成することが出来ました。
	委員	ふるさと納税の額が少なければ、今の28年度予算にはならなかったのか。
	財務課長	ふるさと納税の収入がなければ、当然、歳出を抑え工夫をすることになります。赤字地方債が制度的にない状態でしたので、借り入れは出来ない状況でした。
	委員	一番心配なのは、平成29年度の予算が組めそうなのかですが、どのような感触ですか。
	財務課長	予算の集計中で推測レベル話ですが、固定資産税超過課税やふるさと納税に加え町税収入が若干の増を見込めることを考えると予算は何とか組めるのではないかと考えております。
	ファシリテーター	平成29年度予算を組むにあたり、各課に対して要求した方針はあるのか。
財務課長	予算編成方針で経常的経費を前年度より5%を削減して要求するよう指示しています。政策的経費は、単純に減らすことが出来ないのので、各課の要求を受け入れています。	

項目	発言者	発言内容
ふるさと納税と入湯税の状況について	委員	ふるさと納税の寄附のピークが12月と聞いていますが、今年の状況はどのような感じですか。
	財務課長	寄附であり最終的な結果は予測できませんが、4月以降の実績では昨年並みの数字となっています。28年度当初予算では2億5,000万円の予算を組みましたが、12月に補正予算を組み5億円程度と見込みました。
	委員	2億5,000万円というのは、寄付額から返礼品等の経費を引いた額ですか。
	財務課長	当初で見込んだ2億5,000万円は、経費を含まない寄附金額を見込んだものであり、経費を引くと手元に残るのは6割の1億5,000万円程度となります。
	委員	去年大涌谷の噴火で入湯税がだいぶ落ち、前年対比で40%となった月もあります。今年の7月から少し増えており、旅館協同組合の統計では、一昨年対比での8割から9割の月もありますが、今年度の入湯税の状況はどうか。
	税務課長	11月末の段階で、累計で26年度と比べ約マイナス5%程度であり、27年度に対してはプラスとなっています。

2 次回以降の進め方に対する意見交換の要旨

項目	発言者	発言内容
検討テーマについて	委員	会議のタイトルが「行財政運営を考える町民会議」なので、行財政運営の適正化に向けて見直しやこうするべきなどを考えて行ってはどうか。
	ファシリテーター	行財政運営は、かなり広い分野が対象となりますが、具体的にどのようなテーマを議論すれば良いと思いますか。
	委員	例えば、歳入と歳出は錯綜するので、今回は歳入、その次は歳出による程度限定して行うと良いと思います。
	ファシリテーター	住民のこうして欲しい、こうありたいということも、町の行財政運営に何らかの形で関わって来るため、行財政運営を考えるに文字通り捉われる必要はないと考えていますので、もう少し別の論点でも良いと思っておりますが、他にいかがでしょうか。
	委員	先ほど「行財政に関すること」、「観光に関わること」、「住む場所住みやすい場所」と論点を三つにまとめて頂きました。皆さんから前向きな意見、マイナスの意見を聞いて、観光と住むというこの二つをもう少し掘下げ、最終的に行財政の配分の話やお金の話に繋げていければ良いと思います。
	ファシリテーター	観光に力を入れることは税収を増やすことに繋がります。住みやすいまちづくりも長期的には、若い人の呼び込み転出抑制効果があるので行財政運営の改善に繋がると思います。
	委員	<ul style="list-style-type: none"> 私は住みやすい町は、観光に直結すると思います。このままでは、子どもに町に住み頑張れとは言えないので、住みやすくなると思います。 町長の所信表明で「独自の幼小中一貫教育で箱根に誇りを持ち、語れる子どもを育てていきたい」とあり、子供達が将来観光の中心で活躍して欲しい意思の表れだと思います。

項目	発言者	発言内容
検討の進め方について	ファシリテーター	進め方について、これまでは、コの字型の会議形式ですが、もう少しぎっくばらんに意見交換や議論を行う方法もありますが、いかがでしょうか。
	委員	本当は円卓が一番良い。机の配置をコの字型や五角形六角形と輪にして、役場の方も入る形が良いと思います。
	アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> 今日も色々な考えるべき課題を出してもらいましたが、例えば税金なら他地域の状況や制度的な情報が無い中では、議論が深まらないため、テーマを絞った際に他地域の事例を揃えた上で、比較検討出来る場があれば良いと思います。 観光や教育について皆さん共通認識があるかもしれませんが、改めて長所や短所など現状を聞いてみたいので、皆さんから情報提供していただき共通認識とするのも非常に有益だと思います。
	ファシリテーター	負担のない範囲で皆さんから簡単にプレゼンしていただくのは、お互い勉強になると思います。次のテーマが決まったら、それについて色々な情報提供をしてもらい、あるいは調べた上で議論を深めていく方が生産的だと思います。
	委員	情報提供を町に求めるだけだと話が進まないのが良いと思います。池島先生のゼミの学生さんが、箱根町の経済循環について調査分析していますが、これは町民は知っておくべきだと思いますので紹介する機会があれば良いと思います。
	アドバイザー	学生も地元の方により詳しい情報を聞いてみたいという意欲は持っていますので、そういう機会があれば学生と一緒に情報提供したいと思います。
資料提供について	委員	今回のフリートークに対する町の回答について、これまで通り次回にいただけますか。
	ファシリテーター	自由な意見交換がベースですが、知りたいことがあれば、役場から適切なタイミングで回答をもらうこととなります。滞納状況の説明は、次回に資料をお願いします。
	アドバイザー	町の来年度予算案はいつ頃出来ますか。次回会議時に議会やマスコミに発表していれば情報提供して欲しい。
	財務課長	例年2月の中旬に記者発表していますので、それ以降であれば皆さんにお出しできるかと思います。
	アドバイザー	それを踏まえて観光とか住みやすさなどを議論してはどうか。
	ファシリテーター	次回は、観光と住みよいまちづくりでは、具体的な町の取組みや現状の話になりますが、何か新しく材料を提供して欲しいというものはありますか

項目	発言者	発言内容
資料提供について	アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> • 国立公園について、制度的に知りたいという思いがあります。知床では自然公園になり観光客が来たことで自然が破壊される観光と自然保護の対立がクローズアップされましたが、その辺りを環境省の方に説明してもらえればと思いました。 • 日本の国立公園とアメリカのナショナルパークは制度的には違いますが、箱根はもともと関所がありましたので、それをヒントに課金するだけでなく、500円の入場料を取った場合に、400円分を還元する方法も考えるといった、少し違った形でのお金の取り方があっていいのかと思いました。 • もう一つ、地元愛という言葉がキーワードになると思います。観光地は不便という話がありましたが、外部の人からは適度な田舎で適度に都会の方が住みやすいという意見もあります。 • 住みやすさと観光というのは求めるものが人によって違いますが、そのような意見を外部の人から聞くことで逆に地元愛に目覚めることもあると思いますので、地元愛を持っていただける場を箱根町で作ることができれば良いと思いました。
	ファシリテーター	<p>国立公園についても勉強しておいた方が良いでしょう。今から環境省の方を呼べるか分かりませんが、色々な情報提供は可能だと思いますので制度面や町ができることなどについて用意いただければと思います。</p>
まとめ	ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> • 今回のフリートークでは、行財政改革、観光のまちづくり、住みよいまちづくりと三つのテーマにまとめられると思います。その中で観光のまちづくり、住みよいまちづくりを、先行的に色々議論し、深まった中で行財政改革に戻るとい進め方をしたいと思います。
		<ul style="list-style-type: none"> • 次回は、観光と住みよいまちづくりをテーマとし、もう少し絞り込んで、皆さんに自由に意見交換していただきます。
	ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> • その際に国立公園についての情報提供、あるいは環境省の方に出席を求めるといことと、可能であれば委員の方から観光業界の現状であるとか、あるいは子育てなり、箱根に住むことの現状について具体的な情報提供なりプレゼンをお願いできればと思います。
	ファシリテーター	<ul style="list-style-type: none"> • 皆さんから出た質問は役場から随時回答いただくということで、次回は、固定資産税を中心とする滞納に対する対応状況の特に成果と結果の報告をお願いしたいと思います。